

言語聴覚療法(Speech Therapy-ST)

高次脳機能障害(注意障害、記憶障害、遂行機能障害、行為障害、視空間認知障害など)、失語症、運動障害性構音障害、嚥下障害に対する評価・訓練を中心に行っています。介入初期はベッドサイドで検査を行い、高次脳機能障害や嚥下障害、言語障害の有無・程度を評価します。評価にあたっては各種スクリーニング検査を加え、高次脳機能検査(WAIS-III、WMS-R、BIT、BADS など)、言語機能検査(SLTA など)、舌圧測定装置、嚥下機能検査などを使用しています。これらの評価内容に応じて、コミュニケーション障害の改善のためのリハビリテーションを提供しています。

特に脳卒中患者の嚥下障害については改訂 MASA スケールを用い、発症早期からの詳細な評価を行い、病棟看護師と連携しながら安全に摂食嚥下訓練を進めています。また最近増加傾向にある高齢者の誤嚥性肺炎に対しても呼吸器内科・耳鼻科医師と連携しながら、嚥下内視鏡検査を含めた詳細な嚥下機能評価を行い、安全な栄養手段の確保を目標に介入しています。



舌圧測定器を使用した
嚥下・構音機能評価



嚥下評価用ポータブル内視鏡